

には黄蝶群飛遍満し、其羽音如風。此蝶本出自東叡山云。谷中・下谷邊にも甚だ群飛す。且東叡山中梅櫻満開如春。時人舉て云。黄蝶の群飛するは兵革之兆也。巷説紛紜たり。

是は東鑑三十八卷、承元五年三月十七日黃蝶出現、是兵革之兆也。果して同年三浦泰村等逆謀、頗及關聯。

一、祐乗作七所拵小ッ刀の事

祐乗七所拵御小ッ刀、身は實守也。七所物獅子に牡丹惣金也。此七所物、大坂嘸の節秀頼公より本多佐渡守へ被下、

佐渡守卒後次男安房守政重へ遺物に來る。其後微妙公へ大夢獻上也。元來足利公方家より出て太閤へ相傳候由。大夢獻上の時の身は國吉也。然る處に身は淺野彈正様御誕生の時分御祝儀に被進、唯今淺野家に有之候。其後實守に取合せ御拵被付、三十一年前延寶八年庚申より三十二年前なり。本阿彌光甫仕立上の由。則本阿彌光山申聞候。頃日昔拵小ッ刀の事、御尋の所に光山申候は、古法不及承候に付、同姓共へ相尋候へども不致承知候由。但昔は小ッ刀の寸殊の外短く候。義輝公藥劔藤四郎作を小ッ刀に被仰付、同姓光二拵上申候。其時分長き小ッ刀被仰付と、光二家の者共へ物語仕候旨承候。右藥劔藤四郎は長さ八寸三分有之由に候。右國吉の長さは七寸五分半

御座候。七所拵にて有之候時の鞘は、金貝牡丹からくさと承候。御柄の様子は不承候旨申上候。扱眞守御拵の様子は、柄頭・逆輪・ふち・こひ口・栗形・折金こじり以上七所也。栗形折金は金の獅々也。其外は牡丹に獅々惣金也。逆輪は目貫の所也。御鐔は無之。尤斧・小柄惣金牡丹に獅々也。名物特に無比類と云。

一、尊氏公の判形ある母衣絹

尊氏公判形有之母衣絹、新庄越前守殿四代以前とやらんより傳來の所、越前守殿死後名跡斷絶、依之御後室被拂候由にて、唐本屋口入にて、御書物奉行去年入御覽候。其時分は可相返旨被仰出候處、重て御用の旨にて又來る。五尺四方計にて地は白絹也。幅二寸計にたゝみ折て、上の方は閉ぢたり、下は不閉、上下に紐左右に一つ宛あり皆絹なり、中程に尊氏公の判あり。右のたゝみ折の數十四折あり。

一、源爲朝の矢の根鎗

御鎗奉行河野權右衛門殿より、爲朝の矢の根の御鎗の寫を、土師小右衛門を以て被入御覽候。身の長さ五寸計、形は尋常のかいなりと云が如し。

一、丈木の御腰物

丈木の御腰物長さ二尺一寸五分、中切先にて樋あり。たいはいひらみ也。元來能州黒瀧の長某より傳來。

一、生駒右近草履取喧嘩の仕置

天和二年四月三日夜、於下谷四丁目坂下町生駒右近草履取、黒鉄頭土岐嘉兵衛息源五右衛門と喧嘩仕出し、雙方手負候由、四日晝町人共より右近迄及案内。依之右近より有賀甚六・稻垣三郎兵衛迄書付を以て相斷、家來指出可爲見届やの旨申候。其書付前田佐渡迄達す。佐渡入御覽候處、格の通り可申渡旨被命。猶御旨候て割場奉行半田傳助に、右近家來指添遣候。傳助至彼所候處、右近家來に無紛、口上書上之申候。又七半時分水野右衛門大夫殿家來より聞番迄、以手紙申越候は、昨晚於下谷四丁目坂下町、加賀守様御内生駒右近殿家來、黒鉄頭土岐嘉兵衛息源五右衛門と及喧嘩、雙方手負有之候旨、所の者共及注進候に付、家來指遣候て雙方口書爲致候條、右の御内意各迄可申達旨、右衛門大夫申付候旨にて口書兩通到來す。口書の趣尤意趣も無之候。於途中行當り及此儀候旨にて、右近家來外に一人同道人有之

候。此者は逐電仕候旨。聞番よりは家老共へ可申聞候旨及返答候。五日右衛門大夫殿へ御使者被遣、一昨夜於下谷、家來の者の下人、黒鉄頭土岐嘉兵衛息源五右衛門と及喧嘩候。昨日御内意の趣被仰越致承知候。右下人之儀、法を背き夜行仕事に候へば、公儀御大法も有之、勝手次第に候はゞ殺害申付度候。且又同道人も有之由に候條、遂吟味出來次第、同罪に可申付旨被仰置候。右衛門大夫殿は於御城、御老中方へ被仰達、追て委細可被仰越旨御返答に候。暮頃又使者來り右の趣御老中へ申達候處、尤公儀御大法有之候條、こなたより不及御構候。且又同道人も不及御吟味候旨申來。

六日右衛門大夫殿家來衆より聞番迄、以手紙申來候。昨日申上候通り生駒右近殿家來八内、對御直參喧嘩仕候に付、公儀より御仕置被仰付候旨、御老中方被仰渡。則昨晚所の者共籠屋迄召連罷越、此方より檢使指遣及殺害候。此段御内意可申進旨申付候由申來候。土方勘解由右手紙入御覽候處、早速御案内御大慶の旨被仰候由可申遣旨被仰出候。

一、老中招請の作法

同年四月九日御老中堀田筑前守殿御招請に付、前田佐渡・